

みくわ祭り

昔から3月9日は「みくわ祭り」と言って獅子舞が行われてきた。五穀豊穡を祈念する御鋤祭りのことである。今年も例年どおり朝8時に六名の神社を獅子舞の一行が出発、トーントーンと太鼓の音、ピーヒョロロ笛の音がかすかに聞こえて来る。小山田病院近くのコンビニで何回も獅子舞が行われたのち山田の地内にやってくると太鼓の音もだんだん大きく聞こえる。これが待てども、中々姿が見えない。昔は一軒一軒廻り、木戸で舞って貰っていたがいつからか大通りから奉納希望宅の木戸に向かって厄除けの獅子舞が行われる。



我家の木戸先に来たのは道中の奉納が多く、9時半ごろになっていた。この太鼓、笛の音が聞こえて来ると、こころうきうき首を長くして昔も今も待つのである。長く寒い冬を過ごし、春が来たのだと感ずるのである。山田の春の昔から変わらぬ風物詩である。よそで長く暮らしていた者にとっては子供の頃を思い出し、郷愁を感じる太鼓、笛の音色であり、これからも末永く続いて欲しいものである。



1 1時には地域の高若センターで、また1 3時に加富神社で獅子舞奉納が行われた。前後して厄年の代表者宅でも獅子舞があり、多くの町民が見物し、後でお菓子の振る舞いをいただいた。特に小さな子供たちにとってはこの振る舞いがとても楽しみである。小生の厄年のとき、千葉に住んでいたが、同年の仲間に入れてもらい厄払いを受けたものの獅子舞奉納に立ち会えなかった。息子も同じようにして厄除け祈願をしたが、孫たちに獅子舞を見せる事が出来ず残念なことである。



この獅子舞はいつ頃から行われているのだろうか。3月10日付け中日新聞の北勢版に、写真入りで大きく報道されているが、数百年前に六名町の神社への奉納する祭りとして始まったとされている。何か大きな行事あるいは特別に祈念することがあり、その機会に始まったのだろうか。

近年若い人たちがよそに出てしまい若く元気な「舞手」が少なくなり、70歳になる同級生も現役の舞手として頑張っている。もっと苦勞しているのは「口取り役」、「後舞」をする子供が地区にいない事だという。数年前から山田町や他所の子供がこの季節になると稽古に通い、代役を勤めていると聞いてこの行事を続けることの大変さがしのばれる。口取り役が弾くショキシヨンの音色は又格別だし、獅子との激しい掛け合いもよく鍛錬されていて見事、そして獅子の激しく勇壮な舞が良く映えるのである。見ていて飽きない舞である。

保存会の方々、関係者の方々のご努力に感謝しなくてははいけない。又町民が行事におおく参加することが一番の協力でもある。

平成21年3月14日 文・竹内 雅彰

写真・矢田 義秀